

News

那覇空港・新立体駐車場に「メタルパーク」採用

JFEシビル 鉄骨量約2,300tで柱・梁はすべてめっき処理。システム建築協力会会員らが視察

JFEシビル（本社・東京都台東区、藤井善英社長）は6月2日、那覇空港ビルディングが那覇空港（沖縄県那覇市）に建設中の新立体駐車場の現場見学会を実施し、同社のシステム建築協力会の会員らが参加した。現場では第2期工事の鉄骨建方が行われており、参加者はデッキプレートを敷設する作業の様子や、供用を開始した第1期工事分の建物内部などを見て回った。

新立体駐車場の規模は、S造、地上5階（5層6段）、敷地面積1万4,112m²、延床面積2万9,611m²。鉄骨量は約2,300t。用途は自走式立体駐車場。設計は安井建築設計事務所、元請けは大城組で、駐車場の施工をJFEシビルが担当した。工事は1期と2期に分かれ、完成すれば合計1,226台収容できる。第1期工事（2015年4月1日～12月31日、688台収容）は完了し、現在、第2期工事（16年1月1日～9月30日、538台収容）が進行中だ。

同案件ではJFEシビルのプレハブ立体駐車場「メタルパーク SF-TII型」が採用された。一般認定で1フロア当たり4,000m²以下に制限される床面積を8,000m²まで拡大できる個別認定を独自に取得した。さらに、車両重量2.5tに対応した認定などを取得している点などが評価され、受注につながった。

那覇空港は海に面するため、塩害地での耐久性を考慮した仕様を選定した。柱・梁鉄骨はすべて溶融亜鉛めっき処理とし、外周部に配置される部材については溶融亜鉛めっきに加えて常温乾燥形フッ素樹脂塗装を施した。



第2期工事の鉄骨建方が行われている那覇空港の新立体駐車場

また、床材には高耐食性鋼板を母材とするJFE建材の合成デッキプレート「QLデッキ」を採用し、天井はデッキ現し仕上げとしている。

JFEシビルは近年、「メタルパーク」の採用実績を大きく伸ばしており、新幹線新駅や国際空港に付属する大型案件の受注が寄与している。直近では北陸新幹線

の新高岡駅、北海道新幹線の新函館北杜駅や成田空港、那覇空港の立体駐車場に採用された。また、國場組とのJVで受注した沖縄県那覇市の沖縄産業支援センターの立体駐車場整備工事が今月着工した。同案件の規模はS造、2層3段、延床面積5,043m²、収容台数は301台で、今年11月の完成を目指す。



外周部の鉄骨はめっきと塗装で耐久性を高めた



システム建築協力会会員らは建方中の建物を視察